

令和8年3月31日

令和7年度 東京都立荒川工科高等学校 定時制課程 学校経営報告

東京都立荒川工科高等学校長

長 田 学

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策に対する成果と課題

ア 学校経営・組織体制の改善・充実

【成果】

- (ア) Tokyo-P-TECH、海外学校間交流推進校事業など、全日制課程との協働体制を基盤に、教育活動の一層の充実を図った。
- (イ) 都立学校開放事業や工作教室を実施し、荒川区、地域とのパートナーシップを築いた。
- (ウ) DX化を推進し、端末を活用した会議を推進した。都立学校情報セキュリティ対策基準等を遵守し、個人情報の管理を徹底した。
- (エ) 学校運営連絡協議会の意見や評価結果を参考に開かれた学校づくりの充実を図った。
- (オ) いじめ・体罰根絶に向け、校内研修を実施した。
- (カ) 保護者や地域住民との信頼される学校づくりを推進した。
- (キ) 産業医の助言を受け、教員の心身の健康保持、職務に対する誇りとやりがいを持たせられる職場環境の改善を図った。
- (ク) 特別な支援を必要とする生徒へのきめ細かな対応するため、外部との連携を強化し指導上の課題を全教職員で共有と解決に取り組んだ。

【課題】

- (ア) 新たな広報戦略から、入選倍率を向上させる。
- (イ) 多様化する生徒の課題に対し、外部連携の一層の強化を図る。
- (ウ) 教員の専門性を向上させ、ものづくり人材の育成、工科高校の改革へ結びつける。
- (エ) 計画的な年休取得を推進し、長時間労働の教職員をさらに減少させる。

イ 学習指導の充実・工夫

【成果】

- (ア) 「分かる授業」の実現に向け、一人一台端末をすべての授業で活用し、学習内容の理解を深め、学力向上に結び付け、学力不振で進級できない生徒はいない。
- (イ) TIPS フォーラムに参加し、パネルディスカッションで多くの来場者から高評価を得られた。
- (ウ) 都立工科高校ドリーム・フェスタに多くの生徒が参加し、主体的に来場者に学習成果を紹介し評価を受ける。
- (エ) 課題研究など生徒自身の発想を生かし、主体的・対話的に深い学びを実現化させた。
- (オ) 外部人材の日本語支援員を活用し、在京外国籍生徒への日本語学習を充実させた。
- (カ) 放課後や長期休業期間等における補講・補習を計画的に実施し、各資格取得に努めさせた。
- (キ) 海外学校間交流推進事業で、全校生徒へ JICA と協力してベトナム学習会を実施、希

望者でベトナムスタディツアーを2年連続して実施した。連携した学校との生徒間での交流が深まり、また、現地 IT 企業で活躍する技術者から研修を受けなど、国際感覚を持つ人材育成に努めた。

【課題】

- (ア) IT 推進した授業、都立高校版 AI を活用し、新たな学習展開に取り組ませる。
- (イ) 生徒が研究テーマを設定し、探究心を高める課題研究の授業を展開と TIPS-Type4 への取り組みを充実させる。
- (ウ) 進路実現向け、外国籍の生徒への日本語指導を継続する。
- (エ) 海外学校間交流推進事業の継続など、国際感覚を持った人材の育成に取り組ませる。

ウ 進路指導の充実・工夫

【成果】

- (ア) 進路指導部が主体となり定時制教職員が組織的・計画的なキャリア教育を実施した。
- (イ) ハローワーク等と連携し、定時制進路指導部が主体となり、「発達障害」の傾向がみられる生徒への進路実現に向けた教職員向対象の研修会を実施し進路実現につなげた。
- (ウ) ハローワーク等と連携し、在京外国籍生徒の進路活動にかかわる研修を実施させ、取り組み進路実現に結びつけた。
- (エ) 新規事業として、外部と連携した進路ガイダンス、企業見学会を実施した。また、インターンシップ受け入れ企業の開拓を行い、参加生徒が増加した。

【課題】

- (ア) インターンシップ参加者が9名と増加した。更に企業開拓を進め、参加人数を増やす。
- (イ) ハローワーク等と連携し、在京外国籍生徒の増加に対応するキャリア教育を展開する。
- (ウ) 資格補助制度を活用し、免許・資格の取得、各種検定の合格率をさらに上げていく。

エ 生活指導の充実・工夫

【成果】

- (ア) 生徒の規範意識向上に向けた指導の徹底を図った。特別指導案件は1件であった。
- (イ) セーフティ教室等で闇バイトの犯罪の怖さを学び、未然に防止につなげた。
- (ウ) 警察署や外部団体との連携を図り、自転車での事故、ルール改正について学び、交通安全の理解、ヘルメット着用率を向上させた。
- (エ) 荒川区区民生活部防災課と連携し、地域住民と避難所設営訓練を行う。生徒は、仮設トイレの設営、給水設備の取り組み、自助、共助、公助の意識を高めた。

【課題】

- (ア) 社会人としての規範意識を更にため、犯罪から身を守る手段を粉に付けさせる。
- (イ) 生徒会によるポスター制作など継続し、生徒自らの意識を高め、自転車通学時のヘルメット着用率を更に上げる。
- (ウ) 関係機関との連携した災害時の訓練を実施し、生徒と教職員が地域社会の一員として自分の役割を考えさせていく。

オ 特別活動・部活動の充実・工夫

【成果】

- (ア) 教科「人間と社会」において、主体的なボランティア活動に参加し、自己肯定感を高めさせた。
- (イ) 荒川区と連携した工作教室など生徒が主体的に参加し、地域と連携した事業を実施で

きた。積極的に地域に貢献を行ってきた功績が認められ、「荒川区青少年表彰」2名の生徒が表彰を受けた。

(ウ) 柔道部が全国大会参加し5位に入賞の成果を得えられた。

【課題】

(ア) 部活動の加入率80%達成できた。今後、更に積極的参加を促し、部活動外部指導員の活用し部活動の活性を進め、大会での結果に結びつける。

(イ) 「小学生工作教室」等ボランティア活動を推進し、社会時貢献ができる人材育成を行う

(ウ) ドリームフェスタなど生徒の活躍を直接伝えられる機会に積極的に参加する。

カ 健康づくりの啓発

【成果】

(ア) 学校保健計画に基づき、健康づくりに関する取組を組織的・計画的に進めた。

(イ) 食育指導では、はじめて民間企業に依頼し、食物アレルギーについて生徒の理解を深めさせることができた

(ウ) YSWと連携し、生活環境で不安のある生徒への支援を行い、学校生活が安定して過ごせるように改善を図った。

(エ) スクールカウンセラーを中心に関係機関と連携を図り、教育相談体制を強化した。

【課題】

(ア) 保健体育科と養護教諭が連携し、生徒の体力向上、健康管理に努める。

(イ) 健康の保持、増進を目的とした食育を推進し、給食の喫食率を向上させる。

(ウ) スクールカウンセラーを中心とした定時制支援チームを構築し、支援体制を強化する。

キ 生徒募集活動・学校広報活動の充実・工夫

【成果】

(ア) 夜間中学校訪問や地域と連携した募集活動を実施した。

(イ) 随時、学校見学を行い、来校者が増加した。また、学校案内を一新した受検生徒とその保護者へ配布し、本校定時制の魅力を伝えた。

(ウ) 学校行事や部活動の様子を学校ホームページで昨年度を上回る回数で情報発信した。

(エ) ドリームフェスタへの生徒の参加、中学校教員向け説明会、12月に体験入学を実施し、学校PRの充実を図った。

(オ) 地域連携事業による小学生対象の工作教室を実施した。

(カ) 募集対策の結果、昨年度の3倍の応募者があった。

【課題】

(ア) 合同説明会、各説明会での定時制の独自性を持った広報活動を展開する。

(イ) 中途退学者ゼロにし、信頼のある学校を目指す。

(ウ) 学校見学の機会を増やし、本校の教育活動への理解に努める。

(2) 重点目標と方策

ア 学校課題解決に向けたチーム力の強化

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
課題解決に向けたチーム力の向上とチーム効力感の情勢	サービス事故の防止や教育課題等を目的とした校内研修	年3回以上	○:3回実施
	個人情報の管理徹底を目的とした校内研修	年2回以上	○:2回実施
	全日制課程との協働体制を推進する各種連絡会の実施	随時	○:Tokyo P-TECH 事業、海外学校間交流推進校事業等
図書館環境の維持管理	図書館の利用促進を図る読書週間の設定	不読率50%以下	○:不読率45%以下
ライフ・ワーク・バランスの推進と業務の効率化	各分掌主任の連携による会議時間の短縮	月在校60時間超えの教員ゼロ	×:月在校60時間超えの教員2名
	閉庁日の設定や計画的な年休取得		○:年休取得

イ 学習課題の把握と授業力の向上

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
生徒の基礎学力を把握と中途退学者の未然防止	個に応じてきめ細かな指導を実施する。	学力不振による中途退学者 0	○:学力不振による中途退学 0 名
	1・2 学年の数学・理科、1 学年の電気回路は少人数指導として学力の定着を図る。		○数学・理科、1 学年の電気回路の未修者 0 名
	放課後学習・長期休業中の補習・補講を計画的に実施する。	原級留置者 0	○原級留置者 0 名
	始業前 H R の実施による出席率の向上	出席率 9 0 % 以上	○:1 日遅刻生徒数平均 2 名
授業改善の組織体制を構築	I C T 機器等を活用した授業の実施	各教科で実施	○:各教科で実施
	教師道場や研究員を活用した研究授業や校内研修の実施	年 2 回以上	○:数学科 2 回実施
学校図書館の利用や読書活動を活性化	教科横断的に各教科の授業で図書館を活用し、本に親しむ習慣を身に付ける。	不読率を 5 0 % 以下	○:不読率 4 0 % 以下
より良い生き方を主体的に選択する行動力の育成	地域や関係機関と連携し、教科「人間と社会」の指導内容・方法を工夫改善	成果発表会の実施	○:3 年生 2 テーマ 発表
	外部機関と連携した主権者教育の実施	年 1 回以上	○:関係機関との連携授業 1 回実施

ウ キャリア教育の充実と免許・資格の取得・検定合格

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
生徒一人一人の適性に 応じた進路希望の 実現	生徒一人一人の進路希望を把握する。	進路決定率 100%	×:進路決定率 92%
	○個々の生徒への適切な就労支援	就職決定率 100%	×:就職決定率 92%
	○社会人として求められるマナーやコミュニケーション能力を高める。		○:ハローワーク等、外部人材を活用
	インターンシップへの積極的な参加	1名以上参加	○:9名参加
	ハローワークと連携した進路講話の実施	年2回以上	○:6回実施
国家資格の合格	電気工事士（第一種、第二種）	3名以上	○:5名
	特殊無線技士	3名以上	×:0名
	工事担任者（第二級デジタル通信、第二級アナログ通信等）	3名以上	×:0名
	危険物取扱者（丙種、乙種）	2名以上	×:1名
各種検定	計算技術検定・情報技術検定	10名以上	×:8名
各種制度の認定	ジュニアマイスター顕彰制度	1名以上	○:1名

エ 規範意識の向上と良好な人間関係構築

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
生活指導の充実	いじめ・生命の尊重を目的とした全校集会	年3回以上	○:3回実施
	SNS使用についての研修会	年3回以上	○:3回実施
基本的生活習慣の確立	登校時の校門指導(皆勤生徒の増加)	各クラス3人以上	×:皆勤2名
	粘り強い遅刻指導	年間遅刻延べ回数750回以下	○:年406回
特別な支援を必要とする生徒の共通理解	スクールカウンセラーと連携した校内研修	年2回以上	×:年1回実施
	グループエンカウンターの実施	年2回以上	○:年2回実施
学校教育相談体制の構築	児童相談所、子供家庭総合センター等の外部機関や家庭と連携し、生活課題のある生徒の問題行動について情報共有を図る。	月1回以上	○:月5回
安全教育の推進と中途退学者の未然防止	外部関係機関と連携し、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を行い、非行防止や犯罪被害の防止に取り組む。	中途退学者0名	○:中途退学者0名

オ 生涯にわたる心身の健康の保持増進

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
学校保健計画に基づき、生徒の心身の関わる健康づくりの推進	薬物乱用防止教室	年1回以上	○:年1回実施
	飲酒・喫煙防止教室	年1回以上	○:年1回実施
	感染症等罹患防止の注意喚起と情報発信	時季に応じて実施	○:応じて実施
	食物アレルギーに関する校内研修を実施し、緊急時の組織体制の確立	年間2回以上	○:年2回以上
	「保健だより」の定期的な発行	年6回以上	○:年6回以上

カ 特別活動・部活動の活性化

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
学校行事の充実	内容を精選し、計画的に実施する。	参加率90%以上	○:参加率90%以上
オリンピック・パラリンピック教育の推進	各ボランティア活動へ積極的に参加させ、自発的な貢献力を育成する。	年3回以上	○:年3回以上
障がい者理解	障がい者スポーツ選手の招聘	年1回以上	×:0回
部活動の活性化	各種競技大会・コンテスト等への積極的な参加を促し、入賞体験等を通じて自己肯定感や達成感を味わわせる。	各部活動年2回以上	×:特定の部活動のみ参加
	部活動紹介や全国大会壮行会などを実施し、帰属意識を高める。	加入率75%以上	○:加入率85%以上
	生徒対象の熱中症防止研修等を実施する。	重大事故ゼロ	○:重大事故ゼロ

キ 専門高校の魅力を発信する広報活動と生徒募集対策

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標	達成：○ 未達成：× 結果(報告数値)
学校の魅力を効果的に発信する広報活動の推進と生徒募集対策の充実	全教員体制で実施する中学校訪問	50校以上	○:69校
	ホームページからの情報発信	週1回以上	○:週1回以上
	各科を分かりやすく解説した学校案内作成	7月までに完成	○:7月までに完成
	学校説明会	年5回以上	○:年5回以上
	授業公開		
	体験入学		
	夏休み親子教室	年1回以上	○:年1回以上
	中学校の教職員や塾教員を対象にした学校説明会・見学会	年1回以上	○年1階:実施
	「荒工通信」を発行し、保護者地域へ学校魅力を発信する。	年6回以上	×:年3回以上